

学 校 教 育 目 標	「心豊かで優しい生徒」「自ら学ぶ賢い生徒」「心身ともにたくましい生徒」
目 指 す 学 校 像	(1) 多様性を理解し、人権意識を高くもつ、豊かな人間性と健やかな体を育成する学校 (2) 「真の学力」をはぐくみ、「自立した学習者」を育成する、誰一人取り残さない教育を実現する学校 (3) コミュニティ・スクールを推進し、学校と地域が連携・協働し共に成長する学校 (4) 探究心をもち、主体的に学び続ける教職員の育成と、働きやすさ・働きがいのある学校
重 点 目 標	1 教育環境を整え、人権意識を高くもち、保護者・地域から信頼される職場を構築し、まとまりと機動力のある組織づくりを実現する。 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教科横断的な学習指導の実践。 3 「学校・家庭・地域と連携・協働し、ともに成長する学校づくり」。 4 適正な予算執行、物品・施設管理を行う。計画的で早急に対応する管理体制づくり。 5 生徒に寄り添い、探究心をもち、主体的に学び続ける教職員の育成と働きやすさ・働きがいのある職場の実現。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ・全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語・数学共に全国平均正答率を下回っている。 ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙で「授業でICT機器を週3回以上・ほぼ毎日使用した」と回答した生徒の割合が全国と比べ高い。 <課題>全国学力・学習状況調査の生徒質問紙で「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合が全国と比べ、国語・数学共に下回っている。自分の考えが伝わる文章になるように工夫することや筋道を立てて考え証明するなど表現方法の定着を図ることが課題である。	・学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した「教える」から、「学習者が主体的に学ぶ」授業の実践。 ・生徒一人ひとりの様子を適切に把握し、個々の状況に合わせた指導や支援の実施。	・学校課題研究・校内研修として全教員、「3つの視点からの授業改善」に基づいた指導略案を作成し、校内公開授業を行う。 ・年間で1回以上は、同じ教科担当の校内公開授業を参観する。 ・「3行感想」を用いて、授業者へフィードバックを行う。	・全国学調質問紙「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」（肯定的回答 R6：59.5%→R7：62%） ・全国学調質問紙「わからないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」（肯定的回答 R6:85.3%→R7：88%）				
2	・全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答が、全国、県平均を上回った質問項目は、 ◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか ◎困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 という結果から、他者理解や相談できる大人がいると感じている生徒の割合が高い。 <課題> ・全国学力・学習状況調査において、肯定的な回答が、全国平均とほぼ同じである質問項目 △自分には、よいところがあると思いますか △将来の夢や目標をもっていますか という結果から、自己肯定感を高める取組や継続的なキャリア教育や進路指導等の充実を図っていく。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育相談に向けた校内体制の構築。 ・自己肯定感や自己有用感を更に高め、継続的なキャリア教育や進路指導への取組。	・「おはようメーター」「心と生活のアンケート」等も活用し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し、学校全体で支援の充実を図る。 ・「人間関係プログラム」で学んだことを日常の場面で意図的に取り入れ、学級で発言しやすい環境をつくるとともに、クラスの一人としての役割をもち、活躍の場を設定する。 ・「『命の支え合い』を学ぶ授業」を通して、相談しやすい環境をつくる。 ・いじめ撲滅に向けた取り組みや、登下校時の安全指導及びあいさつ運動を生徒会や教職員を中心として行う。	・生徒による学校評価生徒アンケート「生徒理解・教育相談・生徒指導」に係る項目（肯定的回答 R6:90%→R7：93%） ・保護者による学校評価生徒アンケート「生徒理解・教育相談・生徒指導」に係る項目（肯定的回答 R6:73%→R7：75%） ・全国学調質問紙「自分には、よいところがあると思いますか」（肯定的回答 R6：93.9%→R7：95%） ・全国学調質問紙「将来の夢や目標をもっていますか」（肯定的回答 R6:75.4%→R7：78%）				
3	<現状> ・学校運営協議会を小学校と合同開催とし、連携した教育活動が行われている。 ・学校運営協議会や PTA、地域の団体等の協力と支援体制が確立されている。 <課題> ・学校運営協議会等からの意見を積極的に取り入れ、本校教育活動の質的向上を図るためのPDCAサイクルが機能するように地域教育資源を活用する持続可能な取り組みが必要である。	・学校教育目標の具現に向けて、学校・地域・家庭が連携した生徒が主体となる活動の実践。 ・教育活動の積極的な公開とアンケートの実施。	・生徒参加型の学校運営協議会の実施。 ・小・中連携を深める学校公開を行い授業等三校合同の取組を実施。 ・生徒が公民館で講座を開設するなど、新たな生徒の活躍の場を実現する。 ・教育活動の公開。年2回の授業公開。体育祭、文化祭、合唱祭への地域の方々の参観も実施する。 ・アンケートによる授業の評価を、授業の改善につなげる。	・生徒参加の学校運営協議会実施し、生徒主体のボランティア活動の実現。 ・保護者学校評価「開かれた学校づくり」（肯定的回答 R6：81.8%→R7：84%）				
4	<現状> ・校舎内外の安全点検・巡視により教育活動に支障のある箇所を優先して、修理、修繕を行っている。 <課題> ・破損、故障により学習用タブレット端末の活用した授業に支障が出ている。	・教職員の連携による安心、安全な学校生活、学習環境の整備。 ・ICT機器の整備、補充による教育環境整備の推進。	・学校施設等の現状を確実に把握できる体制を4月中に完成させるとともに、修繕が必要なものについては早急に対応する。学校での修繕が難しい場合は、学校施設課と連携し対応する。 ・破損、故障について速やかな対応。 ・クラウド上の自らの学びの履歴を活用し、自分に合った学習方法や教材、学習時間を判断し、学習計画を立て自己調整しながら（家庭学習も含めた）学びを深める取組と教師の伴走支援の充実。	・教職員学校評価「施設・設備の適正な管理」（十分満足 R6：48%→R7：50%） ・学びの指標アンケート「ICTの効果的な活用」（R6：2.98→R7：3.1）				
5	<現状> 学校研究課題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教科横断的な学習指導の研究」をR7年度も引き続き研究を進める。 <課題> ・授業及び校務にICTを活用し、教職員の指導力向上と業務の効率化を図ること。 ・教職員の育成と学校経営・運営への参画意識を高める教職員組織の活性化。	・研究推進委員会を中心とした校内研修による教職員の資質向上。 ・Well-beingの実現に向けた働き方改革の実現。（子どもたちと向き合う機会の充実）	・「学びの指標」を活用して教師が自身の授業を客観的に振り返ることで授業の改善につなげる。 ・指導力向上のための研修会・教員相互の授業参観・ICT活用研修会・生徒理解のための研修会の充実。 ・運営委員会や生徒指導委員会等が主体となり、学年・教科・校務分掌でのOJTやメンターとしての意識向上、教職員の育成や学校運営への参画意識向上の実現。	・生徒学校評価「教員の生徒理解」（肯定的回答 R6：90%→R7：93%） ・教職員学校評価「研修内容を意識した授業の展開」（十分満足 R6：40%→R7：50%） ・保護者学校評価「教職員の学習指導項目」（肯定的回答 R6：72.7%→R7：75%） ・教職員学校評価「学校全体の調和」（十分満足 R6：64%→R7：70%）				

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

学校地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組